

シンポジウム「動物園は野生動物を救えるか 新たなる動物園への道」

講演要旨 小菅正夫 「今、なぜ国立動物園なのか」

日本にも国立動物園が存在していた時期がありました。

明治15年に上野に開園した動物園は農商務省所管でしたが、大正13年、東京市に下賜され公立動物園への道を歩むことになり、以降公立動物園の時代となりました。戦後各地で誕生した多くの動物園は先進動物園として上野動物園をお手本として建設されています。

動物園には娯楽、教育、自然保護、研究と4つの役割がありますが、その役割にも歴史的变化が見られるようになってきていますが、相変わらず娯楽面に重きがおかれ動物学との関わりが軽視され、研究も大学等への材料提供が主で、特に生息地との関わりが希薄なままです。

そして公立動物園は、住民が望むもの、集客できること、いわゆる数量的評価が重視され、私立動物園は客が望むもの、集客できること、いわゆる営業的数値評価が重視されたために他の3つの目的（教育、自然保護、研究）よりも娯楽が最重点課題とされています。

動物園の役割が歴史的に変化する中で、改めて国立動物園を設立し、現在ある地方の動物園に対して活動の手本を示すべきです。

国内各地の保護されるべき種に関しても、増殖事業や野生復帰などには国の許可が必要となるし、外国種の保護に関しても生息国との交渉ばかりでなく多大な費用が必要です。これらは公立動物園としての限界を超えるものです。

国立動物園は、持続可能な社会への貢献、生物多様性に関わる国際協力、先進国としての国際的責任、発展途上国への持続的協力と支援、国際的環境保全を現存動物園との理念を共有し共に活動します。

国立動物園は総合的学術拠点となります。それは動物園で蓄積された知見と大学や研究機関の調査研究とが統合され、展示という手法を通じて研究成果を広く国民に直接開示することができると思っています。

国立動物園とは、動物に関わる科学の統合的また総合的施設です。

